

調べ案内

作成者:戸田市立図書館/作成日:2016年11月19日

わらびじょう

しづかわ

蕨城及び渋川氏関連史料を 見るには



〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

わらびじょう

しづかわよしゆき

蕨城は南北朝時代に渋川義行が築いた平城で、大永6年(1526)に落城しました*。
今回は、蕨城及び渋川氏について書かれた古い時代の史料の探し方を紹介します。

*『新修蕨市史』通史編 p.191によると、大永4年から6年にかけて、扇谷上杉氏との間で蕨城をめぐる戦闘が行われ、何回か落城を繰り返していたと考えられるとあります。

「蕨城」「渋川氏」について調べるためのキーワード

わらびじょう

蕨城、南北朝時代、室町時代、蕨、渋川氏

しづかわ

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す。

- 図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「蕨城」に関する資料の多くは、次の分類記号に該当します。本を探すときの目安にしてください。

「蕨城」に関する主な分類記号※これがすべてではありません。

031	百科事典	081	日本語全集	210.08	日本史辞典	213.4	埼玉県の歴史
288.2	系図	291.033	地名辞典	291.3	関東地方の地誌		

蕨城及び渋川氏を調べるための本

- 蕨城及び渋川氏関係史料を探すときは、参考資料及び郷土資料架の本が参考になります。

蕨城及び渋川氏を調べるための本

- 「この説は、何から取ったのだろう。」という疑問を持ったときは、大元の史料にあたってみよう。「蕨城」及び「渋川氏」について書かれた史料を見るためには、出典が載っている辞典類を探し、その後、その史料が本として出版されているか調べる必要があります。

【出典が載っている辞典】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉大百科事典』 5巻	埼玉新聞社	1981	T031	本館2階・郷土埼玉
	p.272 「わらびじょうあと蕨城跡」 蕨城の所在地、現存遺構、由来等について書かれています。			
『国史大辞典』 第14巻	吉川弘文館	1993	R210.0	本館2階・参考資料室
	p.940 「わらび蕨」 蕨城の由来について書かれています。※参考文献あり			
『日本歴史地名大系』 11(埼玉県の名)	平凡社	1993	R291.0	本館2階・参考資料室
	p.202 「蕨城跡」 蕨城の由来、現存遺構及び典拠資料が分かります。			
『角川日本地名大辞典』11 埼玉県	角川書店	1980	R291.0	本館2階・参考資料室
	p.907 「[中世] 蕨」 室町時代から戦国時代にかけての蕨城の歴史及び典拠資料が分かります。			
『増補大日本地名辞書』第6巻 坂東	富山房	1980	R291.0	本館2階・参考資料室
	p.524 「蕨」 典拠資料をもとに蕨城の由来が書かれています。			

【出典が載っている資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
しりょうそうらん 『史料綜覧』 巻9	東京大学出版会	1965	R210.0	本館2階・参考資料室
	p.492 「大永6年6月7日」 蕨城落城の記事が、 <small>ほんとしかごちょう</small> 「本土寺過去帳」、 <small>ひたちいぶん</small> 「常陸遺文」及び <small>そくほんちょうつがん</small> 「続本朝通鑑」に載っていることが分かります。			
『日本城郭大系』 5巻 埼玉・東京	新人物往来社	1979	R291.0	本館2階・参考資料室
	p.53 「蕨城(蕨市)」、p.54 「蕨城(戸田市)」 蕨城があったとされる2説についてそれぞれの出典が分かります。			
『歴史ロマン・埼玉の城址30選』	埼玉新聞社	2005	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.36～39 「龍體院伝説」 <small>しづかわよしもと</small> 渋川義基の妻にまつわる伝説、渋川氏遺臣の子孫の風習、蕨城の所在地等について書かれています。			

『埼玉県謎解き散歩』 2	中経出版	2013	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.52～54「足利氏の名門渋川氏の東下と蕨城」 渋川氏と蕨宿の関係及び蕨城の位置について書かれています。			

【古い時代の史料が出版されているか確認する方法】

- 戸田市立図書館ホームページ内にある調べ案内「[古い時代の史料を探すには](#)」(>>トップページ>>参考資料室トップ>>調べ案内の目次「総記」)中「所収全集・叢書名を調べるには」をご覧ください。

蕨城及び渋川氏の関連史料を見る。

- 当館で所蔵する「蕨城」及び「渋川氏」に関する史料は、以下のとおりです。

【蕨城及び渋川氏関連史料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
かまくら おおぞうし 『鎌倉大草紙』(『群書類従』第20輯所収)	続群書類従完成会	1979	R081	本館2階・参考資料室
p.702～706 長禄元年(1457)6月 ^{しづかわ よしかね} 渋川義鏡が探題として武蔵国に向ったこと、祖父 ^{よしゆき} 義行の頃から蕨城を治めていたこと等について書かれています。				
『渋川系図』 (『続群書類従』第5輯上所収)	続群書類従完成会	1979	R081	本館2階・参考資料室
p.420～423 ^{なべしまきいのかみけ} これは、鍋島紀伊守家に伝わる九州探題 ^{しづかわ} 渋川氏の系図の写しです。渋川氏は、 ^{せいわ} 清和天皇を祖とする ^{あしかがよしあきら} 足利義頭の子孫です。p.421に ^{よしゆき} 義行の記述があり、官職、先祖、両親、子の名等が分かります。※蕨の記述なし				
ほんどじかこちょう 『本土寺過去帳』 (『続群書類従』第33輯下所収)	続群書類従完成会	1979	R081	本館2階・参考資料室
p.341「上旬七日」 大永6年(1526)6月に蕨城が落城したことが分かります。				
そんぴ ぶんみやく 『尊卑分脈』第3篇 (『新訂増補国史大系』60上)	吉川弘文館	2001	R210.0	本館2階・参考資料室
p.259～260「清和源氏渋川」 ^{しづかわ} 渋川氏は、 ^{せいわけんじあしかがよしあきら} 清和源氏足利義頭の子孫です。p.260に ^{よしゆき} 義行の記述があり、官位、没年(年齢)、先祖、両親の名等が分かります。※蕨の記述なし				
せんごくいぶん 『戦国遺文』 古河公方編	東京堂出版	2006	R210.4	本館2階・参考資料室
p.147～148「543 ^{あしかがたかもと} 足利高基書状(継紙)」 大永4年(1524)4月1日付け ^{あしかがたかもと} 足利高基の書状には、3月20日夜、北条氏綱が蕨の地を乗っ取り門橋が焼け落ちたとあります。				

『新修蕨市史』 通史編	蕨市	1995	T213.4	本館2階・市町村郷土
	<p>口絵No.3~4「<small>しんかわなおよりゆずりじょう</small>渋川直頼 讓 状 写」、p.156「<small>しんかわよしかね</small>渋川義鏡書状写 (正本文書)」</p> <p>口絵の讓状は、観応3年(1352)6月の写で、讓与される地名に「同国(武蔵国)蕨郷上下」の文字が見られます。<small>よしかね</small>義鏡の書状は一部を確認できます。</p>			
『新修蕨市史』 資料編1	蕨市	1991	T213.4	本館2階・市町村郷土
	<p>p.366~522、528~565</p> <p><small>しんかわよしゆき</small>渋川義行及び<small>よしかね</small>義鏡が書いたもの又は登場する文書及び記録がまとまっています。記録には、p.520「<small>かまくらおおぞうし</small>鎌倉大草紙」、p.521~522「<small>しんべんむさしふどきこう</small>新編武蔵風土記稿」、p.557「<small>こうぞういんちんゆう</small>当社記録(香蔵院珍祐記録)」があります。</p>			
『蕨市の歴史』 1巻	吉川弘文館	1967	T213.4	本館2階・市町村郷土
	<p>p.187~188「<small>かまくらおおぞうし</small>鎌倉大草紙」、190~194「<small>しんべんむさしふどきこう</small>正本文書」</p> <p>蕨城及び渋川氏に関係した記録及び文書です。</p>			
『寛政重修諸家譜』 第2	続群書類従完成会	1980	R288.2	本館2階・参考資料室
	<p>p.137~138「<small>しんべんむさしふどきこう</small>清和源氏義家流足利支流板倉」</p> <p><small>しんかわ</small>渋川氏及び<small>いたくら</small>板倉氏の祖は、<small>あしかがやすうじ</small>足利泰氏の子<small>よしあきら</small>渋川義頭です。蕨城に関係する人物として、<small>よしゆき</small>義行、<small>よしあき</small>義鏡*及び<small>よしだか</small>義堯**を確認できます。系図のほか、名前の読みがな、官位、没年、家紋等を調べられます。※蕨の記述なし</p> <p>*『国史大辞典』等では義鏡を「よしかね」と読んでいます。</p> <p>**『角川日本地名大辞典』では義堯を「よしあき」と読んでいます。</p>			
『新編武蔵風土記稿』 第7巻(『大日本地誌大系』13)	雄山閣	1996	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.241「<small>しんべんむさしふどきこう</small>蕨宿」、p.243「<small>しんべんむさしふどきこう</small>城蹟」</p> <p>江戸時代の地誌です。当時すでに蕨城が城跡だったこと、所在地(方角)、呼び名、南北朝時代から天正期まで<small>しんかわよしゆき</small>渋川義行の子孫が蕨を領地としていたこと等が分かります。</p>			
『武蔵国郡村誌』 第1巻	埼玉県立図書館	1953	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.227「<small>しんべんむさしふどきこう</small>城蹟」</p> <p>明治時代初期に作られた武蔵国(埼玉県に属する地域)各村の地誌です。「<small>しんべんむさしふどきこう</small>新編武蔵風土記稿」の記載を引用しています。</p>			

※文中の読みがなは、各資料の読みに従ったため、読み方が異なることがあります。

※文中に読みのない人名は、『寛政重修諸家譜』『国史大辞典』『歴史人名よみかた辞典』等を参考にし、史料名の読み方は『国書総目録』を参考にし、読みが分からないものには、読みがなを付けていません。

★蕨城に関する「調べ方案内」は、他にもあります。

「[蕨城の概要を調べるには](#)」(514KB)

「[蕨城の所在地をめぐる説を調べるには](#)」(618KB)

「[渋川氏について調べるには](#)」(610KB)

※リンク先は、PDF ファイルです。